



広報

かなぎ

編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町
大字金木字朝日山323
電話☎2111 内線240



これぞ職人技

1999

3

No.395

喜良市上柏木町
(有)白川板金工作所で
製作した「鬼がわら」

平成10年度 金木町文化賞 11人・6団体



～ 平成10年度 金木町文化賞 受賞者一覧表 ～

氏名・団体名	学校名(所属)	出場大会名及び入賞状況等
今 洋 介	喜良市小学校6年	社会を明るくする運動 作文コンテスト 県保護司連盟会長賞
白 川 さつき	金木中学校2年	社会を明るくする運動 作文コンテスト 県更正保護婦人連合会長賞
原 田 兼 治		青森県書道展(平成9年度) 奨励賞受賞
嘉瀬奴踊り愛好会	嘉瀬奴踊り愛好会	北のBON踊りフェスタ 知事賞
金木さなぶり荒馬保存会	金木さなぶり荒馬保存会	金木町の無形文化財である金木さなぶり荒馬踊りの伝承活動を行う。 (金木小学校、金木地区子ども会)
金木登山ばやし保存会	金木登山ばやし保存会	喜良市地区子ども会に横笛、太鼓の伝承活動を永年指導する。
金 木 短 歌 会	金 木 短 歌 会	金木短歌会は西北五1市5町で開催される県下短歌会に会員を参加させ、毎年入賞者を出しているほか、会員が町の広報で短歌を紹介し、町の文化発展に対する高揚を図る。
金 木 俳 句 会	金 木 俳 句 会	金木俳句大会及び県下俳句大会(22回)を開催し、町の文化発展に寄与する。
沢 田 薫(一步)	金 木 俳 句 会	俳誌「鳴子」13号まで発刊、俳詩「鬼灯」5号まで発刊する。又、県下金木俳句大会は今年度で22回開催され、金木町の地域振興と文化活動に永年寄与された功績は誠に大である。
嘉瀬奴踊り保存会	嘉瀬奴踊り保存会	金木町の無形文化財である嘉瀬奴踊りの伝承活動を行う。 (嘉瀬小、金木南中の児童生徒を主に指導)
成 田 太		
鳴 海 ソ ナ		
沢 田 ヨ シ		
山 中 ミ チ エ		
秋 元 光 子		
黒 川 ツ ル		
櫻 庭 利 弘	櫻 庭 美 術 館	昭和45年独立展入選以来(平成9年まで)連続出品(東京都美術館) 昭和49年スペイン美術賞品展出品(スペイン、バルセロナ美術館) 優秀賞受賞 その他個展を40回開催する。

平成10年度 金木町スポーツ賞 66人



～ 平成10年度 金木町スポーツ賞 受賞者一覧表 ～

氏名	学校名(所属)	氏名	学校名(所属)	氏名	学校名(所属)
小山内実和子	金木小学校 1年	鳴海 梓	金木中学校 1年	大橋 昇平	〃 2年
野上 怜	〃 2年	角田 陽子	〃 1年	其田 和也	金木中学校 2年
津島 祐希	〃 3年	工藤 綾	〃 1年	田中 隆太	〃 2年
竹内 克明	〃 6年	白川明日香	〃 1年	佐藤 剛大	金木南中学校 3年
工藤 健介	〃 6年	吉村美登利	〃 1年	沢田 匡希	東奥義塾高校 3年
飯塚 緑	嘉瀬小学校 6年	斉藤 雄太	〃 3年	工藤 倫子	五所川原商業高校 1年
新岡 秀一	金木中学校 2年	前田 英靖	〃 3年	澤田 佳奈	〃 3年
中村 陽仁	〃 3年	秋田 寛己	〃 3年	鳴海 静子	〃 3年
田中 誠純	〃 3年	泉谷 一	〃 3年	原田 晃	五所川原農林高校 2年
松尾 大志	〃 2年	野宮 健司	〃 3年	増田 匡紀	〃 3年
長尾 和明	〃 3年	鳴海 克哉	〃 3年	小松 大也	〃 3年
小山内恵美	〃 3年	澤田 大介	〃 3年	白川 大貴	五所川原第一高校 2年
白川理香子	〃 3年	工藤 公嗣	〃 3年	小林 英稔	〃 3年
相馬麻衣子	〃 3年	成田 哲也	〃 3年	宮崎 秀人	五所川原工業高校 2年
白川未奈子	〃 3年	白川 貴大	〃 3年	山中 治樹	〃 3年
野宮 結衣	〃 3年	其田 享大	〃 3年	大橋 央佳	青森大学
其田 香菜	〃 3年	泉谷 貴教	〃 3年	白川 豊仁	〃
白川 舞	〃 2年	成田 達哉	〃 3年	工藤 勇蔵	金木町体育協会
中谷 泉	〃 2年	三潟 哲朗	〃 2年	鳴海 幸憲	金木中学校(用務員)
白川さつき	〃 2年	成田 達哉	〃 2年	秋元 裕教	金木中学校教諭
福士 由夏	〃 2年	泉谷 尚緩	〃 2年	秋元 洋子	金木町体育協会
沢田 昌江	〃 2年	野宮 大嵩	〃 2年	小野 義昭	金木町スポーツ少年団

距離



家族の応援の中、懸命にゴールを目指すチビッコたち



回転



仲間たちの声援を受けながらエッジを利かせ、そう快に滑る子供たち

表彰



入賞者には成田教育長が賞状とメダルを授与

第40回

町民スキー大会

大会結果

(敬称略)

(回転)

- ◎小学校低学年男子
 - 第一位 對馬 祐季 (嘉瀬)
 - 第二位 今 篤 (喜良市)
 - 第三位 津田 沙織 (嘉瀬)
- ◎小学校四年男子
 - 第一位 内海 将二 (嘉瀬)
 - 第二位 木下 慈大 (嘉瀬)
 - 第三位 澤田 悠乃 (嘉瀬)
- ◎小学校五年男子
 - 第一位 松川幸祐樹 (嘉瀬)
 - 第二位 齋藤 彬宏 (喜良市)
 - 第三位 澤田 悠乃 (嘉瀬)
- ◎小学校六年男子
 - 第一位 木村 翼 (嘉瀬)
 - 第二位 伊藤 尚仁 (嘉瀬)
 - 第三位 山中 春奈 (嘉瀬)
- ◎小学校低学年女子
 - 第一位 土岐のぞみ (嘉瀬)
 - 第二位 工藤 剛志 (川倉)
 - 第三位 野宮 大喜 (喜良市)
- ◎小学校四年女子
 - 第一位 原田 舞 (嘉瀬)
 - 第二位 中谷 亮 (川倉)
- ◎小学校五年女子
 - 第一位 中谷 泰成 (川倉)
- ◎小学校六年女子
 - 第一位 今 幸子 (嘉瀬)

(距離)



ジャンプ

オリンピックに出場した
古川選手はここで鍛えられ、
チャンスをものにした。
頑張れ — 未来の
「日の丸飛行隊」目指し



ちょっと一休み

身が縮むほど寒かった
この日、豚汁の味が格
別うまく感じ体を温め
てくれた。



- ◎ 小学校六年男子
- 第三位 秋元 拓真 (金木)
- 第一位 工藤 和紀 (川倉)
- 第二位 工藤 健介 (金木)
- 第三位 白川 遼介 (川倉)
- ◎ 小学校低学年女子
- 第一位 山中 琴未 (嘉瀬)
- 第二位 澤田亜里紗 (嘉瀬)
- 第三位 川嶋 理奈 (金木)
- ◎ 小学校四年女子
- 第一位 川嶋 麻耶 (金木)
- 第二位 工藤 沙希 (金木)
- 第三位 工藤 琴栄 (川倉)
- ◎ 小学校五年女子
- 第一位 其田和可菜 (川倉)
- 第二位 泉谷 愛美 (川倉)
- 第三位 小林 恵 (金木)
- ◎ 小学校六年女子
- 第一位 泉谷由李香 (川倉)
- 第二位 今 絵里加 (嘉瀬)
- 第三位 秋田 梨夏 (川倉)
- ◎ 中学校男子
- 第一位 鎌田 千秋 (南中)
- ◎ 高校・一般男子
- 第一位 棟方 美暢 (自衛隊)
- 第二位 原田 靖大 (短大生)
- 第三位 古川 秀忠 (一般)
- ◎ 高校・一般女子
- 第一位 成田 真弓 (嘉小教諭)

【ジャンプ】

- ◎ 小学校低学年
- 第一位 對馬 祐季 (嘉瀬)
- 第二位 松川 誉志 (嘉瀬)
- 第三位 三上 健悟 (嘉瀬)
- ◎ 小学校四年男子
- 第一位 木下 慈大 (嘉瀬)
- 第二位 内海 将二 (嘉瀬)
- ◎ 小学校五年男子
- 第一位 木下 幸輔 (嘉瀬)
- 第二位 松川幸祐樹 (嘉瀬)
- ◎ 小学校六年男子
- 第一位 鳴海 玄 (嘉瀬)
- 第二位 櫛引 孝行 (嘉瀬)
- 第三位 高橋 一喜 (嘉瀬)
- ◎ 中学校男子
- 第一位 今 泰人 (南中)
- 第二位 野呂 卓司 (南中)
- ◎ 高校・一般
- 第一位 棟方 美暢 (自衛隊)
- 第二位 原田 靖大 (短大生)

【リレー】

- ◎ 小学校男子
- 第一位 川倉小学校 A
- 第二位 金木小学校 A
- 第三位 川倉小学校 B
- ◎ 小学校女子
- 第一位 川倉小学校
- 第二位 金木小学校
- 第三位 嘉瀬小学校

まちなび

金木町農業者年金協会

20周年記念



▲大勢の人たちが集まり節目を祝う

金木町農業者年金協会（会長 古川幸治）の創立二十周年記念式典が三月五日、小田川温泉ホテルで行われ、会員の人たちや関係者ら約二百人が出席し、節目の年を祝うとともに会の発展を誓い合いました。

式典では、功労者への感謝状や新規加入者に記念品が贈られ、二十年の歩みを説明し

た後、鳴海町長が「農業離れが進む一方、頑張っている皆さんは今後も魅力ある農業の実現に向けて励んでください」と祝辞を述べました。

農業に携わる人たちの老後の生活安定のためにと昭和五十三年に創立された同会は、発足時は四百八十三人の会員でスタートし、平成八年からは配偶者と一緒に女性も加入できるようになり、現在は五百七十人余りが会員で、女性加入者の感心が一層高まっています。

「社会を明るくする運動」

作文コンクール

小・中学生が入賞

今年で六回目を迎えた「社会を明るくする運動」作文コンクールで、喜良市小六年の今洋介君が県保護司連盟会長賞（なのはな賞）、金木中二年の白川さつきさんが県更生保護婦人連盟会長賞（こすもす賞）を受賞しました。

犯罪や非行のない明るい社会づくりの啓発活動として、小・中学生を対象に作文募集を行ったもので、県下十二保護区中、七保護区から五十八点の応募がありました。今君は「明るい社会になるために」と題し、未成年者の犯罪に焦点を当て、命の大切さ、冷静に善悪の判断をすることなどを書き記し、また白川さんは「明るく温かい家庭をつくるために」と題して、老いていく祖父との生活の中で温かい家庭づくりとは何か、自分の将来像と重ね合わせた作文を書き上げました。



▲大粒の汗をかきながら除雪する職員

社協・町職員 お年寄り宅の雪片付け

一人暮らしのお年寄り宅の除雪を二月十六日、町社会福祉協議会の職員と町職員が行いました。

作業に当たった職員十五人は二班に分かれ、町内の十五独居世帯を訪問。屋根に積もった約六〇センチメートル余りの雪をスコップで落としたり、

玄関周辺をスノーダンプを使って手際よく片付けていました。

除雪をしてもらった蒔田の大橋ツネさん（八十歳）は、「玄関前の雪は自分でもできるが、屋根の雪は無理。大変助かりました」と、感謝しながらお礼を述べていました。



▶受賞を喜ぶ今君と関係者



▶笑顔をみせる白川さんたち

◀ 入学を待ち遠しそうに先生の話聞く園児ら



もうすぐ一年生!

― 金木小で一日体験入学 ―

今年四月、小学校に入学する子供たちの「一日体験入学」が二月十六日、金木小学校（校長 蝦名昭逸）で行われ、町立第一、第二保育所と金木幼稚園の幼児五十二人が参加しました。

二クラスに分かれた子供たちは、トイレの利用の仕方を教わったり、全員が体育館で駆けっこしたり、「一年生に

なったら友達百人でできるかなあ」と、元氣良く歌を歌ったりして新しい友達とも打ち解けていました。第一保育所の白川康靖くんは「小学校に入ったら野球をやりたい」と入学を待ち遠しそうにしていました。

また、父母らにはスクールバスの利用方法や給食関係の話などの説明がされました。

「うめロマン」に続け

新作に取り組み ― 梅加工販売組合 ―

梅を使った特産品開発に力を入れている梅加工販売組合（組合長 白川春雄）でこのほど、清涼飲料「うめロマン」に続く新たな商品として、梅ゼリーやジャムの試作に取り組みました。

白川組合長ら六人が、平賀町にある県の施設「つがる農産物加工センター」を訪れ、センター職員の指導で果肉の

煮方やゼリーを作る時の糖分量など、決め細やかな説明を受けて数種類を作り上げ、試食をしながらそれぞれの味の違いを比べていました。

「梅は体にいいので、子供たちにも食べやすいものに仕上げたい」と話す加工組合では試行錯誤を重ね、「近い将来の特産品にしたい」と、はりきっています。

地吹雪体験に一役

ふみだわら寄贈

嘉瀬上小栗崎の松川チヨさん（七十七歳）がこのほど、昔ながらの生活用具「ふみだわら」を作り、津軽地吹雪会（代表 角田周）に寄贈しました。

畑仕事が趣味という松川さん

は、雪が降り積もる時期、仕事の合間に稲わらを使って草履など一昔前の民芸品を手作りしています。ある日、テレビ画面の向こうで「地吹雪体験ツアー」が放映されているのを見た時、使われていた「ふみだわら」がほころんでいたのが付き、新しいものを贈りたいと作業に取りか

かりました。完成したものの「使ってもらえるかしら」と、戸惑っていた時に偶然にも知り合いの地吹雪会のスタッフの一人の方と会い、話をしたところ快い返事をもらい手渡すことができました。

松川さんは「なくなりつつある物を失わないよう、時間がある時にいつも作っていました。使ってもらえてありがたい気持ちです」と話し、地吹雪会の角田さんも「二月二十六、二十七日にある今シーズンのファイナールに使わせてもらいます」と、即戦力のプレゼントを喜んでいました。



▲完成したふみだわらを手にする松川さん



▶ 職員の指導で、ゼリー作りをしている組合員ら

太宰をしのぶ ⑪ 太宰治と生家 (2)

金木町太宰会々長
木下 巽

生家「旧津島邸」は、太宰作品と共に、興味深い問題が数々あります。今回は要望もあり、旧津島家の建築費について再考してみました。

【大邸宅】

明治三十七年、津島家は県内長者番付の第四位を誇る「県下有数の地主」でした。

父源右衛門は、曾祖父惣助の一周忌過ぎ、邸宅の新築に着手します。規模においては県内第一を誇る佐々木嘉太郎家を、構造においては生家松木家をそれぞれ模倣し、建築は弘前市の堀江組に設計・施工を依頼します。明治三十九年五月着工し、翌四十年六月二十一日に落成しています。

作品『苦悩の年鑑』に、「父はひどく大きい家を建てた。風情も何も無い、ただ大きいのである。間数が三十ちかくもあるであらう。」と書いています。階下十一室二百七十八坪、二階八室百十六坪、付属建物や泉水庭園及び前庭を合わせて宅地六百八十坪、赤い屋根がそびえている和洋折衷の大邸宅です。

【2万円と4万円説】

福島県二本松市の松本さんという方から、「福島県下の新聞記事で、旧津島家（斜陽館）の建築費について、A新聞が二万円、B新聞が四万円とまったく違う記事が掲載されました。どちらが正しいのか教えていただきたい。」という質問状が役場に届き、教育委員会に回ってきました。わたしなりの考えをまとめて返送しましたが、はたして納得されたかは疑問です。

今回は、かなりの時間をかけて再調査してみました。したが、証明できる文書記録は見つかりませんでした。新しい書籍には四万円が定説になってい

ます。古い書籍には二万円説も四万円説もありません。太宰没後、津島家成立の研究書には、亀井勝一郎氏、益子道江氏、奥野建男氏が挙げられます。これに対して、今官一氏が「太宰治と津島家の問題」（昭和三五）、そして相馬正一氏が「太宰治と『家』の問題Ⅰ」（昭和三七）を論及し、後の『若き日の



▲太宰は小説「津軽」の中で松木家に立ち寄った際、お庭の木石の配置など、似ていると記している。

太宰治」で津島家の成立過程を明らかにしています。この研究書でも、「莫大な金を投じて大邸宅の新築を始めた」と書いています。このほか「棟梁堀江佐吉伝」『津軽の洋風建築』の書籍にも、建築費の記述はありません。

【3枚のパンフレット】

いま、手元に「旅館斜陽館」のパンフレット一枚と、「金木町」作成の新・旧パンフレット二枚があります。「旅館斜陽館」の方は、昭和五十四、五年ころ作成と古いようです。これには、「当時のお金で工費四万円(当時、

米七千俵)をかけて造られたものです」と書かれています。前社長・黒滝さんは「木立民五郎、白川兼五郎、中谷幸一氏らと調査・検討した結果、四万円に落ち着いた」と語っています。町の古いパンフレットには、「当時二万円をかけた豪邸」と、記入されています。これは、「二十年前ころか、資料が無いので古老や関係者に聞いて、二万円にしたのを継続している」ということです。どちらの説も、それを裏付ける決定的な「文書」が無いということです。後者の二万円説が、福島県A新聞の記事に掲載されたものと推定されます。昭和五十五年九月、朝日新聞が青森版に「津島家」と題して連載を始めます。同年九月三日の二回目に「建築費は、当時のカネで総額四万円、米の値段にして七千俵だった」と掲載されています。この記事は、地道な資料集めと聞き書きに頼ってまとめたとあり、四万円説を裏付けているようです。後に「津島家の人々」として発刊されています。

また、弘前市「第五十九銀行」は、明治三十五年四月着手、明治三十七年十一月に落成しています。この建物の総工費は、六万七千七百余円(米一万二千俵余)と明記されています。布嘉邸・第五十九銀行とも、堀江佐吉の設計施工であり、その規模から比較して四万円というのは、かなり近い額だと思えます。

青森県農業総覧に、明治四十年の米価は、一石十四円八十銭とあります。換算すると一俵五円九十二銭になります。七千俵として計算すると、四万一千四百四十円になります。確認の文書が無いにしても、四万円というのはいくらに妥当な数字だと考えられます。

相馬正一氏は、「評伝太宰治改訂版」(平成七・二)に「四万円の大金を投じて邸宅の新築にとりかかった」と、初めて明記しています。

【比較資料】

次に、比較資料としてあげられるのは、五所川原の「布嘉」こと、佐々木嘉太郎氏の邸宅です。明治二十七年十二月に起工

最新版の「金木町パンフレット」にも、四万円と書かれています。これで、旧津島家の建築費が当時のお金で四万円ということ共通化され、定説化していくことでしょう。

図1 フレンチパラドックス

—ヨーロッパ諸国の内、乳脂肪消費量と心疾患死亡率—

【心疾患死亡率と肉消費量】 【冠動脈疾患死亡率と乳脂肪消費量】

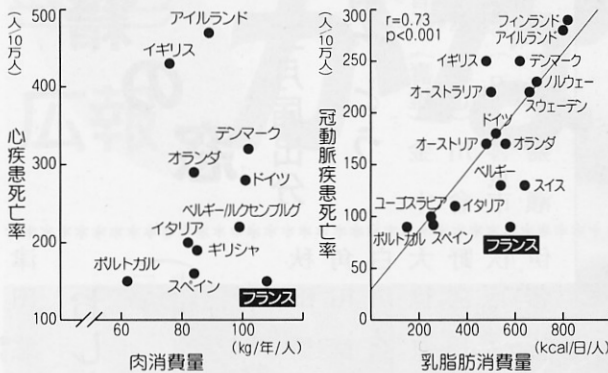


図2 各国の1人あたりの年間ワイン消費量

(L/年)

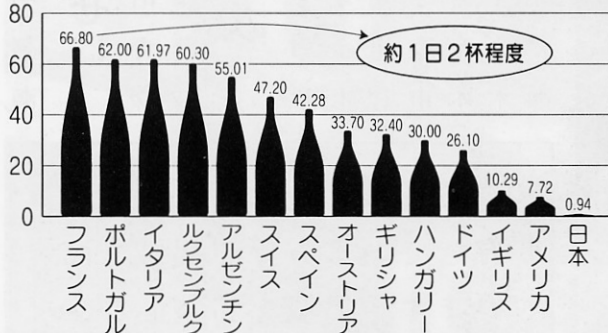


図3 各種飲料のポリフェノール含有量

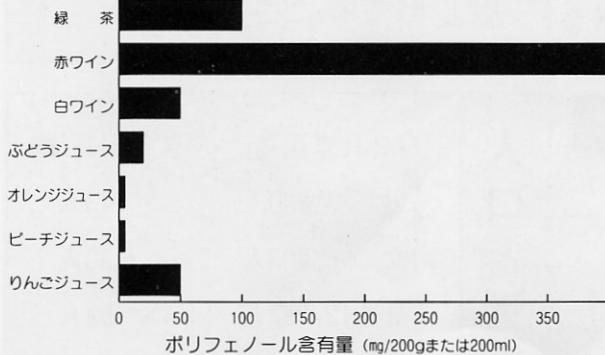
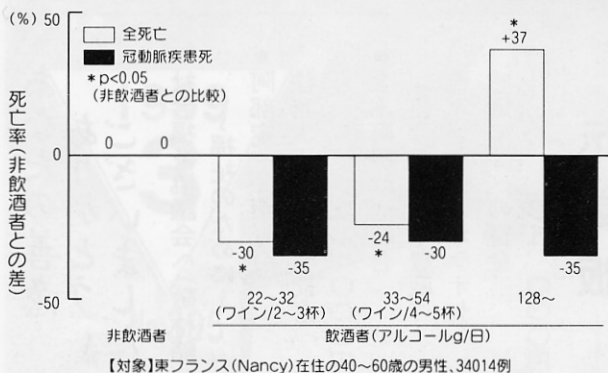


図4 フレンチパラドックス・解決の疫学調査



金木病院カルテ (156)

ワインと健康

内科 横野 良樹

なぜか今、ワイン。特に赤ワインブームなのです。この火付け役となったのがヨーロッパでも飲酒家の多いフランスと言われている。では何故そうなったのか? 「フレンチパラドックス」この言葉は聞いたことがあるでしょうか。図1に示しますが、肉の消費量や乳脂肪の消費量の多いフランスでは、なぜか心疾患の死亡率が同じヨーロッパ諸国より少ない。動脈硬化を促進するとされる食品を

多く摂取しているのになぜ? 動脈硬化は、総コレステロールのうちのLDLコレステロールが酸化され、血液を流れる管である動脈壁を傷害し、病巣であるアテロームを形成ここに血小板とか血栓が付着して血管内腔を狭くし閉塞することによって発症する。頭の血管が閉塞すると脳梗塞、心臓の血管が閉塞すると心筋梗塞となる。では、どうしてワインなのか? 図2に示したのがワインの消費量。ご覧の通りワインの摂取量はヨーロッパ諸国の中ではフランスが圧倒的に多い。しかも心疾患の死亡率が低い。この現象が「フレンチパラドックス」なのです。心疾患の死亡率の低さの理由は、最近の研究からぶどうの皮に含まれるポリフェノールがLDLコレステロールの酸化を抑制し、このことが動脈硬化の進行を抑えているのではないかとされている。これが赤ワインブームの医学的な根拠なのです。ポリフェノールの各種飲料中の含有量は図3に示しますが圧倒的に赤ワインが多い。また消化管からの吸収もよいとされている。しかし、その一日量はグラス二、三杯まで。それ以上を摂取すると図4のように非冠動脈疾患死が増加して逆に死亡率を上げることになる。ほどほどの心が必要のようです。楽しくアルコールを嗜む。お刺身や桃酢のきいた肴、気の合う人とともに赤ワインやロゼのシャンパンを飲み、一日の疲れをいやすのも健康にはよい提案かもしれません。

戸籍

の窓

二月届出分

おめでとう

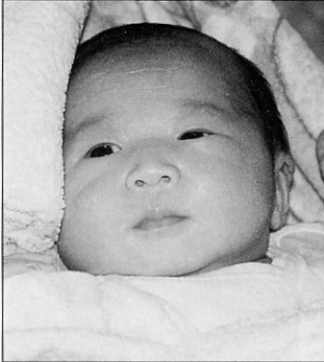
松尾美智子(壽雄) 金木
 三濁愛華(純也) 川倉
 伊丸里穂(忍) 喜良市
 吉崎未暉(努) 嘉瀬

秋田松則(68才) 川倉
 角田徳造(74才) 金木
 白川文四郎(85才) 川倉
 大橋ヨチ(87才) 喜良市
 野宮長康(62才) 金木
 秋元ツギ(89才) 金木
 伊藤竹雄(71才) 嘉瀬

津田悠生(佳明) 嘉瀬
 おしあわせに
 (三上晃(勝治) 青森
 成田美由紀(勝幸) 藤枝)

おくやみ

はじめまして



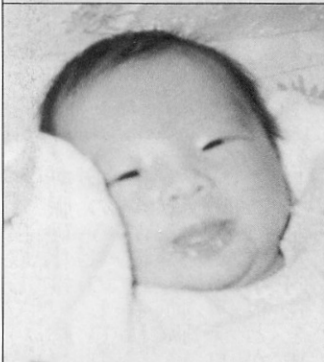
りほ 里穂

元気に健やかに育ってほしい
 (母 純子)



みちこ 美智子

元気で明るく素直な子に育ってほしい
 (母 マリア・マドンナ)



ゆうせい 悠生

悠々とたくましく育ってほしい
 (母 しのぶ)



みく 未暉

動物を愛する優しい子になってほしい
 (母 直子)

この欄は、金木町に住所を有している方々を掲載しています。掲載を希望しない方は町民課窓口へ届出の際申し出てください。

金木営林署が津軽森林管理署金木支署に

国有林野事業改革の一環で金木営林署が3月1日から、津軽森林管理署の金木支署に名称を変更して再スタートを切りました。

金木営林署は明治19年7月、喜良市小林区署として発足以来、幾多の変遷を繰り返しながら昭和7年、金木町に移転し金木営林署と改称され、ヒバ林を中心に県内営林署管内でも有数の収入実績を誇っていました。

人口と世帯

	2月末現在	前年同月比
男	5,830人	△ 43人
女	6,403人	△ 50人
計	12,233人	△ 93人
世帯数	3,936	8

伝言板

- ◎届いています
 - 二月一日 金木小学校付近 婦人用腕時計
 - 二月五日 ルコ美容室(北新町) 婦人用腕時計
 - 二月十七日 青森銀行金木支店駐車場 家の鍵
- 心当たりの方は、金木警察署落し物係まで。
 ◎係から
 このコーナーを利用した方は役場企画室まで。

あなたの善意
 ありがとう
 ございました

- ▼社会福祉協議会へ(敬称略) 福祉のために
- 阿部定一(芹野町) 法務大臣表彰受賞記念 五〇、〇〇〇円
- 金木町料飲店組合 (組合長 田中豊蔵) チャリティカーオケ 感謝の夕べの益金 二五、〇〇〇円